玉垂

Tamadale

たまだれ

No.56

奉祝記念号

天皇陛下御即位記念

”令和のお屋根替え“

特別寄稿文

京都大学　大学院　人間・環境学研究科　助教

阪口翔太／小さな野生蘭が物語ること

琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会　代表運営委員／日本文化チャンネル桜　沖縄支局キャスター

我那覇真子／沖縄の現状と安全保障

特　集

平成31年 例祭の斎行／大神様に捧げる日々の感謝のこころ

天皇陛下御即位記念“令和のお屋根替え”～次世代へつなぐ 祈り・技・美 ～ ご奉賛のお願い

興静会発会式／書家 杭迫柏樹

『書』を通して、「郷里」「国」「世界」の文化興隆へ貢献

遠江国一宮

小國神社の由来

創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十六年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。

それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武将など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元亀三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拝殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川将軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様がご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。

小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり

ご祭神とともに

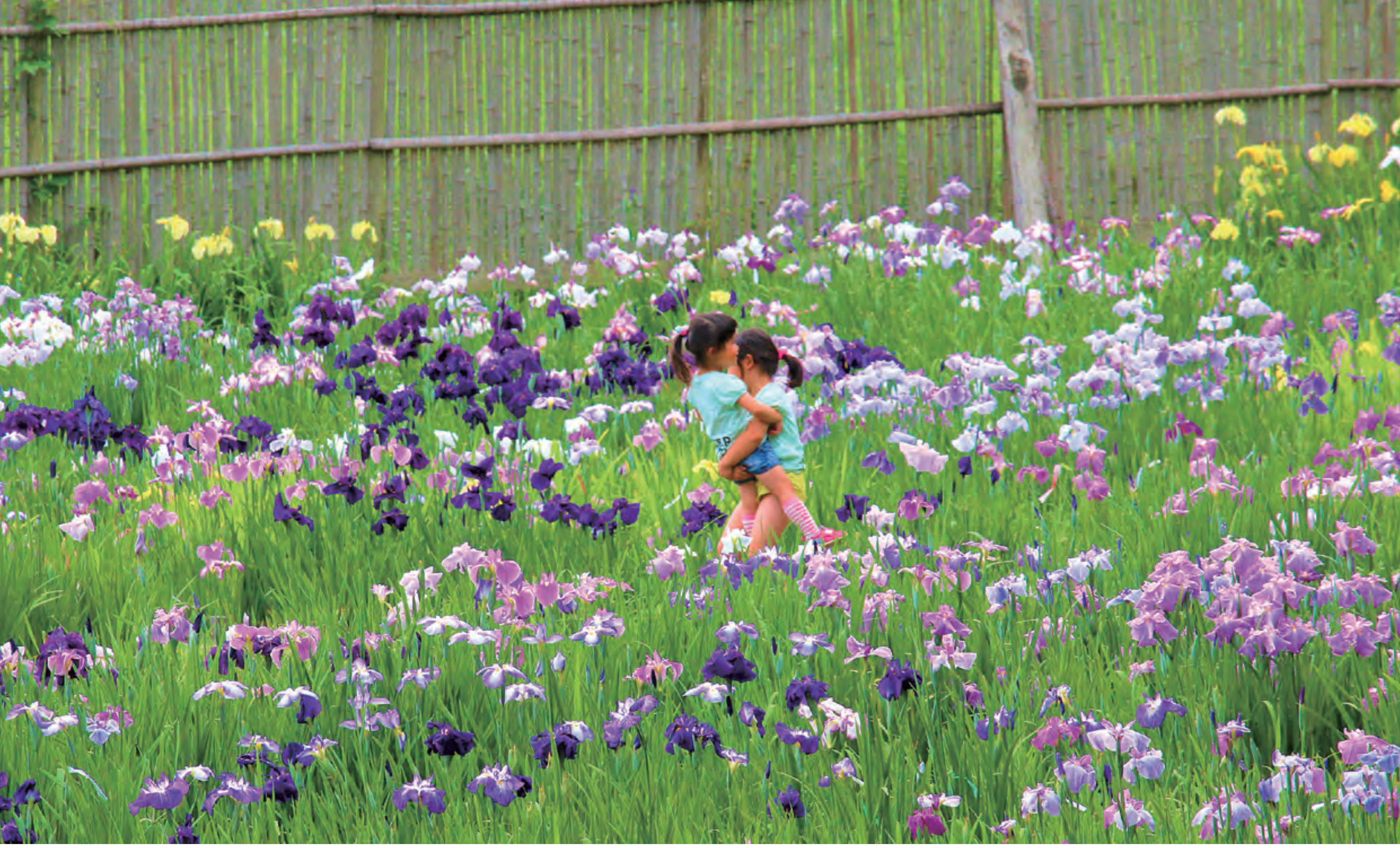
公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり　検索

日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。

神代より語り継がれてきたお話には、日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたてて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



美しく咲き揃う花菖蒲／一宮花しょうぶ園

御大礼の年にあたり

本年は光格天皇以来、実に二〇二年ぶりの「御譲位」により、皇太子殿下が践祚（即位）され、「令和」の大御代を迎えました。当社におきましても、「令和」最初の日となった五月一日に総代・責任役員・氏子崇敬者のご参列のもと践祚改元奉告祭を斎行し、謹んで大神様に一二六代天皇の御即位をご奉告申し上げ、聖寿の万歳と皇室の弥栄を寿ぎ奉り、国の隆昌と世界の平和をお祈り致しました。

この日の報道には、渋谷駅前のスクランブル交差点などで多くの若者が歓喜の声を上げる様子が映し出され、人々が前向きな言葉で新時代の到来と未来を語っていたことが大変印象に残っています。当社では、新しい大御代をお祝いしようと、さながらお正月のようにご参拝の皆さまが訪れ、社頭からは「令和、おめでとうございます。」との挨拶の声が聞こえてまいりました。普段あまり意識をしない元号が、実は国民を統合する大きな役割をはたしていたことが、改元によって明らかになりました。

一方で、生活の利便性の観点のみで西暦（キリスト教暦）への一本化を主張する人もおりますが、むしろ元号と西暦を併用することができる日本人の民度の高さに自信を持ち、文化の一つとして大切にしたいと思います。私たち国民は、この元号に込められた「理想」や「願い」を忘れることなく、その実現を目指しながら新時代を築いてゆかなければなりません。

当社では、この佳節を記念し、御本殿以下社殿群のお屋根の葺き替え事業「**天皇陛下御即位記念　令和のお屋根替え**」**～次世代へつなぐ祈り・技・美～**を四年の歳月を費やし実施してまいります。本事業の趣意と詳細につきましては、本号に掲載させていただきました。何卒、ご理解ご奉賛を賜りますよう重ねてお願いを申し上げます。

いよいよ、今秋には、「即位礼正殿の儀」と「大嘗祭」が古式に則り厳かに執り行われます。五月一日より始まった皇位継承に係る諸儀式は、その悠久の歴史に裏付けされた国家的重儀であるとともに、神代より歴代の天皇と国民によって受け継がれてきた「日本のこころ」の原点とも言えます。この記念すべき年に際会するにあたり、天皇陛下を中心に戴く日本の国柄に思いを致しつつ、世界に類例のない我が国の誇るべき文化を、私たち一人ひとりが自身の言葉で語ることができるようになることが肝要であると存じます。

氏子崇敬者各位のご壮健をお祈り申し上げます。

令和元年七月十七日

例祭

大神様のもとに集い

日々の"感謝"を伝え
ともに"喜び"をわかちあう

例祭・神幸祭

●例祭とは

神社にとって最も重要な祭祀の一つで、通常は年に一度執り行います。その神社やご祭神にとって特別に由緒あるお祭りで、俗に例大祭とも称されます。
当社では、ご祭神大已貴命（おおなむちのみこと）が本宮山に鎮まったとされる縁起の良い吉日です。

●神幸祭とは

神霊が宿ったご神体や依り代などを神輿に移して、渡御します。ご祭神がお出ましになることで神威を広く行き渡らせるとともに、神と人とが親しく交歓する機会となる大切なお祭りです。

例祭の斎行

本年の例祭期間は四月十六日㈫末社塩井神社の垢離祭（神職・舞楽人が身を清める塩水を汲むお祭り）の斎行に始まり、十七日㈬には前日祭を執り行い、十八日㈭に例祭を迎えました。

二十日㈯午後二時から国指定無形民俗文化財でもある古式十二段舞楽を大前に奉奏しました。

翌日、二十一日㈰十時五十分から古式十二段舞楽を奉奏し、午後二時からの神幸祭では、神輿渡御が行われ、大宝元年（七〇一）の勅使参向の時代絵巻を再現した勅使行列が参道を華やかに飾りました。本年の勅使役にはJA静岡中央会会長鈴木勝様にご奉仕いただきました。

また、本年は、ナショナルジオグラフィックなど世界的な仕事を手がける若手フォトグラファー西村祐介様が古式十二段舞楽の取材に訪れ、全ての演目を撮影されました。全撮影日程終了後、「the folk 2」として作品発表をされます。こちらも完成が楽しみです。

氏子崇敬者の皆様におかれましては、常日頃変わることのない祭事、行事へのご奉仕に対しまして心より感謝を申し上げますとともに、益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

舞楽 大神様へ捧げる"誠の心" 一、三〇〇年続く幽玄の伝統

▶十番「抜頭」

◀七番「安摩」

特殊神事芸能　小國神社古式十二段舞楽

古式十二段舞楽は、小國大神様への誠心をもって奉納することを本義とし、本年は、4月20日㈯・21日㈰奉奏いたしました。

大宝元年（701年）春18日、都から勅使（天皇の使者）が出向き、現在の社地に里宮を開き、十二段の舞を奉納したことが舞楽の始まりと伝承されています。また、舞楽は、東洋に発達した古代芸術の代表的なもので、『東洋文化の精』とも言われています。当社の舞楽の細部には、中央で失われたとされている所作が部分的に残っており、その文化的価値や伝承活動が認められ、昭和57年1月23日文化庁より「重要無形民俗文化財」に指定され現在に至ります。

太平楽

稚児舞

古式十二段舞楽奉仕者御芳名
（敬称略）

指南役	白幡富幸
副指南役	大場篤
行頭 衣裳方	天野智加志
師匠	高木誠　小林隆　大場詞信　鶴見俊之　内藤明廣　北島恵介　鈴木勝幸
師匠見習	小川正恭　石橋宏高　野口雅人　鈴木章夫
稚児	山崎隼誠　大場睦基　両角温真　鈴木慶一
太平楽	大場斗喜　渡辺稀介　藤原陽翔　内山太陽
色香	石橋宏高　朝比奈斉　天野大易慈　鈴木康雄
安摩	岩瀬公紀　白幡磨佐彦
二の舞	山本勉　成瀬満雅　西尾享　鈴木昌人
陵王	内藤篤　鈴木章夫
納蘇利	小川正恭　嶋田秀邦
獅子	栗田強介　村松浩一郎　内山敬浩　内山智昭　鈴木聖也　鈴木裕也
座頭の坊	下原健史　山岸功治

◀「舞揃い」 奉奏前に念入りに最終確認をします

各地区よりご奉仕の御神宝奉持者の皆様▲

▶八番「二の舞」故事ことわざの「二の舞を演じる」の語源と考えられています

例　祭　点　描

末社塩井神社の垢離祭から始まる様々な祭典風景をご紹介

だいこく様役でのご奉仕▲

勅使役　JA静岡中央会会長　鈴木勝様▲

▲フォトグラファー西村裕介様による
写真集「The folk 2」撮影風景

森町指定無形民俗文化財巫女舞

当社の巫女舞（御神楽）は、天正18年（1590）の「遠州小國一宮天宮神領之事」が初見で、400余年の伝統を誇ります。

延宝6年（1678）の配当帳に「御子　式部・蔵人・靫負・斎」とあり、すでに近世初期には4人の舞となっていたと記され、現在でもその形は継承されています。

現在の指南役、原田多加資様は伝統文化の継承に尽力されています。

巫女舞奉仕者御芳名（敬称略・順不同）

指南役 原田多加資

奉仕者 山出夢莉　菅沼弥央　山本凜　永田美琴

大前を照らす御神燈献燈

清浄な灯りをご神前に

本年の例祭におきましても多くの氏子崇敬者の皆様より、御神燈と雪洞を献燈いただきました。灯りには元来「火」がつきもので「火」は清め祓いに用いる清浄なものです。

また私たちの祖先は「火」そのものが諸霊を呼び、それらが依り付くとも考えてきました。

大前に灯りをお供えすることは照明としての意味と、ご神域を清浄に整える二つの意味があります。

御芳名（敬称略・順不同）

㈱阿部　栃木県
㈲浦野モータース　森町
大石糀店　森町
㈱大島寅次郎商店　福島県
大沼建設㈱　森町
岡野建設㈱　森町
㈱小倉商店　森町
春日屋青果店　袋井市
京都奉製㈱　京都府
倉見建設㈱　森町
㈱さのや会館あしかび　森町
㈱三愛工芸　茨城県
㈱三永　森町
㈱松鶴　袋井市
榛葉工芸　島田市
セコム㈱　磐田支社　磐田市
㈲デザインオフィス　エム・エス・シー　袋井市
豊田合成㈱森町工場　森町
㈱長谷川製作所　埼玉県
㈲破魔矢奉製所　神奈川県
常陸神宝㈱　茨城県
㈱丸井紙店　山梨県
みどり写真館　森町
㈱村上社寺工芸社　兵庫県
リリーフ㈱　森町

神賑わいの灯り雪洞献燈

御芳名（敬称略・順不同）

小國ことまち横丁
㈱鈴木長十商店
小國ことまち横丁
㈱ネクサスコーポレーション
ことまち夢小径
㈱鈴木長十商店
遠州森鈴木農園㈱
かんなび
㈲ヤマニシ建築
㈱久米吉
あさひな㈱
㈲太田茶店
㈱伸孝
保食や
㈱ダイゴ
青木恒産
㈲朝比奈造園
胡祉斎
㈱鈴木建装
友誠
㈲西尾工務店
森のどうぶつ病院
長岡香料㈱静岡工場
三木の里カントリークラブ
サンフード機販㈱静岡工場
松田歯科医院
ヤマハ発動機㈱森町工場
㈲アマノ
㈱太雄工業
㈲大井製作所
西村医院
㈲オーキッド

ぴあタウンシャトー中川
烏骨鶏苑
金山化成㈱シズオカ工場
大同DMソリューション㈱　静岡工場
ヤスマ㈱静岡工場
㈱ザ・フォレスト　カントリークラブ
㈱山本環境整備
㈱菓匠　あさおか
松浦製茶㈱
野口園
台日レストラン
中村　登
中村金子
㈲富士鉄工
㈱八幡屋茶舗
松ヶ谷診療所
亀山鋹男
小國神社　敬神婦人会
小國神社　氏子青年会
遠州みもろ焼
メイクアップ㈱
神宏クリーンサービス㈱
旭自動車
㈱デイトナ
㈲北島電気工業
フナギテッケン㈱
㈲守屋モーター
㈱ジェイエイ遠中サービス
㈲ムラマツ住建
㈲今泉土木
かねとよ㈱
カルト㈱
㈱ツカモト
㈲エムケイイデンキ

田中屋酒店
㈱ハマネツ森工場
㈲インテリア村松
中井商事㈱森工場
㈱やまひろ関東工場
㈲アカネ造園土木
長谷川建具店
マルミ塗装
日本工機㈱
木創工房　森童
暁雲窯
清水商店
鈴木土建㈱
真田の森
ビューティサロン　タカヤナギ
cafeもりまち
高柳米穀店
㈱大塚彫刻工芸
㈲遠州ボデー
髙木建築
カットハウスオオタ
吹きガラス工房
フロレスタファブリカ
さくら水道
㈲萩原造園
㈲渡辺防水工事
㈲タカギ商会
㈲すずき工業
鈴伍酒店
遠州中央農協園田支店
ヘアーサロンタカギ
㈱関東甲信クボタ　遠州森営業所
森のびようしつ
山本フミコ美容室
㈲多米建設
美容室たけしの店
一ノ宮郵便局
㈲栄産業

入鹿ハム
㈲金原石油
加藤修・孝尚事務所
㈱家本工務店
㈱アコルトパッケージ
建機工業㈱
乗松刃物
鈴木美容院
こっこ屋
なかね美容室
楽酒処　駿
東京理容
工房HAL
サイクルショップ　パストラーレ
㈱アイムファイン
豊一商店
㈲共栄土建
㈲石田茶店
㈱日本温装工業
㈲鈴木次郎商店
㈱袴田製作所森町工場
栗田商店
百々や

献詠ご芳名（敬称略・順不同）

・**兼題「御代替り」**
小池まさ子　宮本　幸子
髙木　弘年　加藤あや子
川嶋　ひで　牧野百里子

・**兼題「平成」**
小池まさ子　加藤あや子
髙木　弘年　川嶋　ひで
牧野百里子　河野　久子

特別寄稿

小さな野生蘭が物語ること

京都大学　大学院　人間・環境学研究科　助教　阪口翔太

写真1

私は大学で植物の遺伝的多様性を調べている駆け出しの研究者です。現在研究の対象としている植物のひとつに、ヒメフタバラン（姫双葉蘭）という野生蘭があります。ヒメフタバランは全国的に珍しい植物で、静岡県でも「学術上・自然保護上注目すべき種」に指定されています。私は予てから静岡県でのヒメフタバランの調査を希望していたのですが、このような珍種のため野生している場所に出会うことはありませんでした。そのようなとき、静岡県内の植物調査をされている大石満先生からの情報で、「小國神社の社叢林（しゃそうりん）の中にヒメフタバランが大群落を作っている」ということを聞いたのです。

平成31年4月、念願かなって現地を訪問し、小國神社のヒメフタバラン群落を自分の目で確認することができました。

本稿では、人目につきにくいこの野生蘭の紹介を通じて、個性に富んだ生き物が本社叢林に息づいている意味について、私が感じたところを書かせて頂きます。

社叢林に広がる　ヒメフタバランの群落

その日はよく晴れた天気で、小國神社境内のシダレザクラは今が盛りと咲き誇っていました（写真1）。その華やぎから外れて、私たちは宮川沿いの歩道を奥の方へと歩いていきました。木々の冠から漏れた光は地面にやさしく届き、川からの湿り気を含んだ風が穏やかに流れます。歩道脇は丁寧に手入れされているのでしょう、小さな植物の成長を妨げるような落枝や雑木は見当たりません。歩いていて清々しい気持ちになる道です。

まもなく、歩道のすぐ脇にヒメフタバランが現れてきました（写真2）。場所によっては株が列をなし、足の踏み場もないほど生えているところもあります。調査にご同行頂いた大石満先生、「小國神社の花々」を著された坂部哲之先生から歓声が上がるほどの密度でした。私もこれまで日本各地でヒメフタバランを見てきましたが、小國神社ほど個体数の多い群落は初めてで驚かされました。どうやらヒメフタバランにとって、この社叢林がたいへん居心地のよい環境になっているようです。

蘭とは思えない奇妙な花

蘭といいますと、コチョウランやカトレアのように豪華に咲き誇る種類をイメージされる方も多いかもしれません。その中にありながら、ヒメフタバランは茶褐色の花を咲かせる目立たない野生蘭です。「フタバラン」という名前は、2枚の葉を対で着けることに由来します（写真3・上段）。また「ヒメ」と形容されるように、地面を眺めて歩いていなければ見過ごしてし

まうくらい小さな植物です。

花を拡大した写真を見てみましょう。とても複雑な構造をしています（写真3下段）。花の中心には黄色い花粉の塊が見えています。花弁がその周りを取り囲みますが、一部は2本に分かれて下方に伸びています。私にはこのヒメフタバランの花が、足を伸ばした人間の姿のように見えるのですが、皆様の目にはどう映るでしょうか？ヒメフタバランがこのような形の花を咲かせるようになった理由はまだ解明されていませんが、花粉を媒介する昆虫との関係があるのだと考えています。自然が生み出した造形は奥深く、植物研究者として探求心をくすぐられるものです。

写真2

植物にも個性がある

私たち人間の顔や血液型が個人で異なるのは、体の細胞に含まれる「遺伝子」に個人差があるからです。人間に比べると単純な作りをしているように見える植物であっても、実は遺伝子の数は数万個もあり人間とさほど変わりません。そのため、植物にも遺伝子に裏打ちされた個性が存在しています。小國神社のヒメフタバランをひと株ずつ観察していると、そのことがよく分かります。写真3（下段）には2個体のヒメフタバランの花を示しましたが、典型的な茶褐色のほかに緑色の花弁をもつ個体もありました。また葉の形や色味にも個性があり、細長い葉をもつものから中央に白い筋が入る株もあります。隣り合って生えていても顔形が違うことに気付くと、小さな野草のひとつひとつが一層愛おしく思えてくるものです。

写真3

ヒメフタバランの個性を育む社叢林の歴史と環境

では、どうして小國神社のヒメフタバランはこれほど個性が豊かなのでしょうか？先に書いたように生物の形は遺伝子が司っていますから、社叢林の群落には多様なタイプの遺伝子をもつ個体が分布していることは確かです。こうした遺伝的な多様性は、一朝一夕で生まれるものではありません。何千年、何万年という長い歴史を通して、ヒメフタバランが世代を重ねるなかで生まれてきたものです。またその多様性が次世代に受け継がれるためには、群落の中にたくさんの個体が生活していなければなりません。個体の数が多ければ多いほど、異なる個性をもったヒメフタバラン同士で繁殖する機会が増えるからです。

小國神社の社叢林は神域として厳格に保護されながら、人の手によって丁寧に管理されてきた環境です。人と自然がうまく調和したこの環境がヒメフタバランの個体数を保ち、個性に富んだヒメフタバラン群落を育んできたのだと考えられます。これからも社叢林の環境が維持され、その木陰にヒメフタバランが咲き続けることを願っています。

プロフィール

京都大学　大学院
人間・環境学研究科　助教
阪口翔太

主に、植物多様性が歴史的にどのように形成され、環境に適応してきたかを、フィールド調査をもとにデータ採取、分析し研究する。他にもニホンジカの過採食で荒廃した植生の保全活動に取り組む。

■著　書■
「系統地理学　DNAで解き明かす生きものの自然史」
「中尾佐助　照葉樹林文化論」の展開－多角的視座からの位置づけ
「地図でわかる　樹木の種苗移動ガイドライン」（分担執筆）

"興静会" 発会式

書家 杭迫柏樹

『書』を通して、「郷里」「国」「世界」の文化興隆へ貢献

正式参拝 玉串拝礼▲
杭迫柏樹先生(左)・森町長太田康雄様(右)

四月十五日㈪、当社の崇敬者で日本を代表する森町出身の書家 杭迫柏樹先生の故郷への強い想いを受けて、この度、書道を通じた文化興隆を目指す「興静会」(こうせいかい)を発会いたしました。

本会の設立にあたり、最高顧問には、静岡県知事川勝平太様、顧問には、浜松いわた信用金庫会長高木昭三様、森町長太田康雄様、豊田肥料㈱代表取締役社長豊田富士雄様、会長には、当社宮司打田文博、副会長には、袋井商工会議所専務理事鈴木満明様、㈱鈴木長十商店取締役社長鈴木康之様、森町ライオンズクラブ会長村松藤雄様にご就任いただき、当日は六十余名の会員が参加のもと報道各社も詰めかけるなか、発会式を盛大に開催いたしました。

◀席上揮毫をされた杭迫柏樹先生
会場の空気が一気に張り詰めました

「書家としての修行時代、活躍の時代を経て、今は恩返しの時代に入ったと感じています。」

興静会顧問 浜松いわた信用金庫▲
会長 高木昭三様

興静会副会長 袋井商工会議所▲
専務理事 鈴木満明様

▲新元号「令和」の書をご奉納いただきました

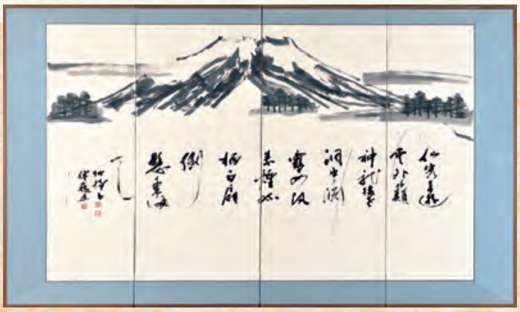
▶興静会会長　打田宮司による挨拶

杭迫先生は、森町に生まれ、幼少より書に親しまれていました。昭和二十八年に書家としての学びの場を京都に移し、以来「書」の研鑽を積まれ、多くの賞を受賞されています。

なかでも、平成十九年には、「書」の最高峰と讃えられる『日本芸術院賞』を受賞されました。この受賞を機に、先生は、「書を通して、郷里の文化興隆に残世を捧げたい。との強い気持ちが日ごとに昂まりました。」と述べられています。

「書を通して、郷里の文化興隆に残世（のこりよ）を捧げたい」

『豪爽』額　県立遠江総合高等学校



『富士山（石川丈山）』額　静岡県庁

『敬神崇祖』碑　小國神社

プロフィール

書家

杭迫柏樹（くいせこはくじゅ）

昭和9年、静岡県周智郡森町に生まれる。幼少より書に親しみ、毎日大きな硯に大量の墨をすり、なくなるまで書くほどに熱中する。

書家を志し、京都学芸大学美術科（書専攻）へ入学、卒業。現代書道の巨匠、村上三島に師事、後に日展初入選を果たす。本格的な書家としての活動のため、教職の辞職を決意。以後、日展内閣総理大臣賞（平成17年）、日本芸術院賞（平成20年）、京都府文化功労章（平成22年）、紺綬褒章（平成26年）など多数の賞を受賞。日本を代表する書家として、国内外で活躍中。

○現　職○

（公社）日展名誉・特別会員・（公社）日本書芸院名誉顧問・（公社）全日本書道連盟顧問・（公財）全国美術振興会顧問・読売書法会最高幹部会会議議長・顧問など多数

新元号「令和（れいわ）」書 奉納大会を開催

奉納受付期間：令和元年七月一日～九月三十日／奉納料一点につき五〇〇〇円

アメリカ合衆国在住▲
bongioviさんご一家

令和元年五月一日、天皇陛下のご即位に伴い元号が「平成」から「令和」へと改まりました。この慶事に日本中に祝福の和が広がり、世界各国からも暖かい祝意が次々に寄せられました。

新元号「令和」は、国書「万葉集」を典拠とした日本初の元号です。

万葉集は、一二〇〇年あまり前に編纂された日本最古の歌集であるとともに、天皇や皇族、貴族だけでなく防人や農民まで幅広い階層の人々が詠んだ歌が収められ、我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴しています。

そして、「令和」に込められた理想は、『様々な人々が美しく心を寄せ合うことで、文化が生まれ育ち、その悠久の歴史、四季折々の美しい自然などの日本の国柄を次の世代へ引き継ぐ』ことであるとも語られました。

心に沸き立つ「希望」を「書」で表現してみませんか？

皆さまそれぞれの「令和」への祈りや理想を込めた渾身の「書」奉納作品を募集しております。作品の審査は、日本を代表する書家杭迫柏樹先生、中澤皐揚先生そして、当社宮司が行います。

書体・書風は全て自由です。ご奉納参加資格は全人類で国籍も性別も問いません。

作品は、小國神社に奉納され、令和年間を通して保管されます。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

詳細は、興静会事務局までお問い合わせください。

人々が美しく心寄せ合うことで文化が生まれ育つ

平成31年4月1日▲
新元号発表についての首相談話様子

主催 興静会

協力 遠江國一宮 小國神社

興静会の活動について

今後、先生の熱誠に応えるべく、当会では、左記のような活動をおこなってまいります。

- ○公共施設への作品奉納及び寄贈
- ○新元号「令和」書奉納大会
- ○揮毫機会の創出
- ○シンポジウム・講演会・研究懇談会等の開催
- ○筆塚の建立と筆感謝祭・筆供養などの開催
- ○その他関連する活動など。

入会のご案内、「令和」書奉納大会のご案内、ご相談は興静会事務局（小國神社内）

―電話―

（〇五三八）八九―七三〇二

年会費一〇、〇〇〇円

神々とお祭り

私たちの祖先は、神祭り（かみまつ）のなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。
また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。
毎年同じ時期にお祭りが繰り返し行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、
日本の伝統にもとづいて、
神々に対する祖先のこころを
今に伝える大切なかたちです。

社頭動静

奉祝の空気に包まれた社頭の様子▲

践祚改元奉告祭にご参列の皆さま▲

令和元年五月一日 奉祝天皇陛下御即位

新しい御代を祝う社頭の賑い

奉祝の空気に包まれた社頭の賑わい

五月一日に天皇陛下が御即位遊ばされ、新しい御代「令和」がはじまりました。

当社におきましても、我が国の慶事をご参拝の皆さまとともにお祝いいたしました。

御即位当日の早朝五時三十分には、明神通り振興会のご奉納による、天皇陛下の御即位と新たな御代をお祝いする巨大な横断幕を二の鳥居に掲げました。

次いで、践祚改元奉告祭（天皇陛下の御即位により元号が改まったことを小國大神様にお伝えし、更なるご皇室の弥栄を祈る祭祀）を責任役員・総代・氏子崇敬者の参列のもと、厳粛に執り行いました。

境内では、記帳所を開設、期間中に七、〇〇〇人以上の皆さまが奉祝の誠を捧げました。後日、こちらの芳名帳は神社本庁を通して宮内庁へお届けいたしました。

また、「令和」の元号を焼き入れた祝い菓子「三笠山」を数量限定で振る舞い、こちらも大変好評となりました。

そして、一日より開始した「奉祝　天皇陛下御即位」の金印を押印したご朱印には、長蛇の列ができ、小國神社史上初の状況となりました。

ご参拝の皆さまにはご不便をおかけした点も多々あったかと存じますが、お陰をもちまして事故や大きな混乱無く、平穏無事に新たな御代が幕を開け、皆様とともに、奉祝の誠を捧げることができました。

ご朱印をお受けになる皆さま▲
門前の鳥居近くまで伸びた列

祝菓子を振る舞う職員▲

悠久の歴史、薫り高き文化そして ”日本の国柄“ を新たな時代へと引き継いでいく

▶静岡木工様が天皇陛下御即位を奉祝し、奉製したお神札立て。当日の祈祷申込者一〇〇名に無料授与いたしました。

▶早朝に掲げられた奉祝横断幕

◀奉祝記念のご朱印を受けられた方

▲㈱庭政様による いろはもみじのご奉納

▲おおはらえのことば原画展
作者たたらなおき様によるワークショップ開催

▲初甲子祭　打出の小槌で身体を撫でご加護をいただきます

いろはもみじのご奉納

ことまち池に新たなフォトスポットが誕生

三月十六日㈯に㈱庭政　鈴木志郎様により、樹齢三〇余年の「いろはもみじ」をご奉納賜り、摂社宗像社が鎮まる、事任池（ことまちいけ）の竹生島に植栽がおこなわれました。

現在、事任池は、水面に反射した赤い橋を撮影できる美しいフォトスポットとして、国内外より人気があり多くの方が撮影を楽しまれています。

この度のご奉納により、美しい景観がさらに引き立つようになりました。

大前が美しく華やかになり、宗像社の女神様たちもさぞお喜びのことと存じます。

㈱庭政様のご厚志に深く感謝を申し上げます。

ムービー「おおはらえのことば」原画展の開催

古の祝詞（のりと）が教えてくれたのは、清らかな心を尊ぶ日本人の姿

平成三十一年三月二十四日㈰からの十日間、研修室において当社公式WEBサイトで公開中の特設ムービー「おおはらえのことば」の原画展（主催：日本の神話に親しむ会・協力小國神社）を開催いたしました。

期間中は、約一二〇〇名の人々が訪れ、大祓詞（おおはらえのことば）の深遠な世界観に触れていました。

幼い頃から、日本の神話や伝統、地域の逸話などに親しむことは、「徳育」の一つとしても、その有効性が広く認められています。

※徳育とは…「知育」・「体育」と並び教育の重要な分野です。

初甲子祭の斎行

だいこく様のお近くでいただく、特別なご加護を

三月二十八日㈭に約一〇〇名の皆さまにご参列いただき、初甲子祭を斎行いたしました。

初甲子祭は、寒明け最初の甲子の日に行います。甲子の日は、ご祭神大己貴命（おおなむちのみこと）が「国作り」を始められた吉日とされています。

当日は、普段は立ち入ることができないご本殿の廻りを歩き、本殿階下に特別に設えた、だいこく様の宝器「打出の小槌」を手に取り、日々の感謝と祈りを捧げていました。

お参りをされた皆さまは一様に穏やかな表情をされておりました。

献茶祭の斎行

季節の恵み「福徳神饌茶」を大神様に供え日々の感謝を伝え、さらなるご加護を

四月十六日㈫に献茶祭を斎行いたしました。

献茶祭では、薫り高い銘茶の産地森町で茶業を営む方々により結成された『小國神社献茶会』が出来たての新茶をご神前にお供えし、国の平安、国民の繁栄、そして茶業の振興を祈ります。

本年は煎茶道静風流守本湖堂様、天野智堂様よりお点前のご奉仕をいただき、森町茶商組合長松浦芳雄様、森町長太田康雄様を始め、ご関係の皆さまにご参列賜りました。

▶献茶祭　薫り高い新茶をご神前にお供えいたします

ご参拝の皆様

◀菊川市市長太田順一様㊨
国土交通省浜松河川国道事務所所長田中里佳様㊧

▲独立行政法人日本政府観光局理事
柏木隆久様ご一行のご参拝

第四回小國神社と人と暮らしと神のたな展開催!!

「神さまを祀る」生き方を次の世代へ

本年も、四月二十七日より十日間、「小國神社と人と暮らしと神のたな展」（主催㈲静岡木工・神棚の里／協力　小國神社）を開催いたしました。

本展では、『神さまと暮らす丁寧な生き方』を提案、神だなや神具などを丁寧に紹介し、販売もおこないました。また、特別展示では、テーマを「元号」とし、その歴史や文化的意義などを学び、ご皇室の祈りの伝統に触れるパネル展示を行いました。

ご来場の皆さまからは、「ご皇室の祈りの伝統を学ぶとともに、家庭における祈りの継承が大切なことだと良くわかりました。」との声をいただきました。

期間中は七，〇〇〇名以上が来場され、賑わいの開催期間となりました。

▲二〇一八年グッドデザイン賞受賞の神だな「かみさまの線」

▲職員による展示解説

▲本年のテーマは『元号』KIMIXラジオの生放送取材もありました。

夏詣（なつもうで）、森林浴のススメ

小國の杜で過ごす癒やしのひととき

宮川沿いの青葉もみじを眺めながらスギとヒノキの古木が立ち並ぶ散策路での森林浴は格別な癒やしのひとときとなります。

「森林浴」は昭和五十七年に日本において提唱された健康法です。現在では、「shinrin-yoku」としてアメリカを中心として各国にも浸透してしつつあります。

近年では、科学的根拠が数多く示され、ストレスレベルの低下、ワーキングメモリーの改善や、生きていることを実感できる、などの多くの効果が期待できます。

▲宮川の水面に写る青葉もみじと赤橋

▲本宮山青葉祭
本年も多くの皆さまがご登拝になりました

▲静岡県観光協会
文化プログラム
観光モデルルートの取材

本宮山青葉祭の斎行

爽やかな初夏の風が吹く、青葉薫る本宮山

五月六日㈪十一時、爽やかな薫りが心地良い黒文字（クロモジ）の木で飾った、本宮山奥磐戸神社の大前で斎行いたしました。当日は、責任役員の皆さまを始め氏子崇敬者約一〇〇名のご参列を賜りました。

祭典後には、特別に奉製したお神札をおわかちし、山頂からの美しい遠州灘を望みながら古式神酒と初鰹の刺身をいただき、大神様の豊かな恵みに感謝をいたしました。

毎月、六日の九時三十分頃から月次祭（国と地域の平安と、氏子崇敬者の安泰を祈るお祭りで、この日にお参りすると縁起が良いとされています。）

どなたでもご参列ができますので、皆さまお誘い合わせの上、ご登拝下さい。本宮山奥磐戸神社へのアクセスは

［本宮山奥磐戸神社　アクセス］［検索］で検索！

一宮花しょうぶ園開園

神々の恵みが凛とした咲き姿に宿る

初夏の風物詩、一宮花しょうぶ園を本年も開園いたしました。
（期間：五月二十五日～六月十六日）

ご来園の皆さまは、園内でのゆったりとした時間を楽しみながら、自然の息吹と尊さを感じられていました。

宮代神饌田　御田植祭

昔の手振りをそのままに

五月二十六日(日)宮代神饌田において、田植え初めの祭り御田植祭を執り行いました。

我が国において「お米」は、神さまからの授かり物として大切に受け継がれてきました。そして、その生育を願い幾重にも祭りが執り行われ、日本文化の礎を築いてきました。

当社の御田植祭も古くから行われ、現存する最も古い記録書「延宝の記録」にてその様子が記された由緒ある神事です。平成十一年に現存する資料や伝承をもとに古儀を復興し現在にいたります。

本年も旭が丘中学校の生徒らが五月女、五月男としてご奉仕頂きました。

また、氏子青年会ＯＢの玉垂会による代掻き牛が登場すると多くの参列者から笑みが溢れていました。

第七回もりもりマーケットの開催!!

森の仲間たちがつくる森の暮らし

五月二十六日(日)本年も、森町出身の女性たち（代表　土屋製菓　今泉京子さん）で運営する『森町の仲間たちがつくる森の暮らし』をテーマに森町の魅力を伝える人気イベントが開催されました。

手作りの洋服や雑貨、洋菓子や和菓子など、暮らしの中で小さな幸せを感じられるものがセレクトされ、来場者は思い思いの品を購入していました。来場者からは、「小國神社の自然に包まれながらの買い物はとてもリラックスして楽しめました。」との声も聞こえてきました。

本年は、二十六店舗が軒を連ね、終日賑わいの一日となりました。

▶御田植祭　祝詞奉上

▶旭が丘中学の生徒によるご奉仕

◀賑わいのもりもりマーケット

▶玉垂会によるご奉仕

▶御田植神事

◀宮園小学校体験学習

特別寄稿

沖縄の現状と安全保障

琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会　代表運営委員
日本文化チャンネル桜　沖縄支局キャスター
我那覇真子

皆様初めまして、我那覇真子と申します。私は〝沖縄から日本を守る〟を合言葉に保守的な活動をしている者です。具体的には現在「琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会」の代表として日々沖縄の新聞二紙による世論情報操作等と戦っています。この平和のご時世に何をと思われた方もいらっしゃるかも知れません。仕方ありません。何故なら今沖縄ではマスコミが自分達の意にそぐわないことは発信しない、捻じ曲げる、時には捏造までして言論空間を支配している為、真実の情報を知っているかいないかで180度物事の見え方がまるで違ってくる異質な情報空間になっているからです。それはまるで映画マトリックスの様な世界です。

私は普天間基地辺野古移設の移設先、辺野古のある名護市で生まれ育ち現在もそこで生活をしております。この辺野古移設問題程情報が捻じ曲げられていることはありません。新聞によると平和を愛する県民が政府の基地の押し付けを嫌がり抗議の声を挙げているという報道になりますが、しかし地元辺野古区は当初からずっと移設を〝容認〟してきており、早く工事が進んで欲しいというのが実際の声です。また現在進行中の工事を〝新基地建設〟と基地反対派は呼びますが実はこれも正しくはありません。そもそも普天間基地辺野古移設はどうして計画されたのでしょうか。それは、普天間基地が本島中部宜野湾市のど真ん中にあり物理的に航空機が民家の上を飛行しなければならない環境にある為、滑走路を辺野古の海に移設し、より安全な環境を作ろうというのがこの計画の原点なのです。辺野古に出来る滑走路はV字型で風の向きに関わらず離着陸時に民間地上空を飛行する必要がなくなる設計になっています。米軍基地は日米安保に基づく我が国安全保障の命綱ですから、当然なくてはならないものです。その基地との共存をより安全な形で図る為の計画ですからそもそも反対しようがありません。もし反対となれば、「では危険性をそのまま放っておいていいのか」という問いに答えなければなりません。そこで考え出されたのが「新基地建設」という言葉です。つまり、危険性除去の為の移設という原点を隠し、あたかも新しい基地を＝新しい負担を沖縄に強いるのがこの計画なのだと県民に刷り込むことができたならそこで初めて反対運動が成り立つようになるからです。また、現地で座り込み反対活動を繰り広げている人達の中に地元民はほとんどいません。遠く南部の那覇市や別の区域から来ている革命思想を帯びた人達、あるいは全国から集まった活動家、そして東アジアからアメリカ軍を追い出そうと躍起になっている外国勢力特に北朝鮮の流れを汲んだ朝鮮人がその中心にいます。そしてその活動によって米軍基地が沖縄から撤退してしまえば利益を得るのは尖閣や沖縄の領有権を主張している中国です。

彼らの活動は非暴力の平和活動と呼ぶには程遠い内容で違法な活動もまかり通っているのがその実態です。沖縄では「反戦平和は免罪符」という言葉があり反基地であれば何をやってもいいと言わんばかりの荒れようです。驚かれている読者の皆様、実態がそうなのですから仕方ありません。

現地で反対運動を取り仕切っている団体に沖縄平和運動センターというところがあります。そこのリーダーである山城博治氏は率先して違法活動に邁進し、平成28年10月3つの容疑で逮捕され有罪確定となりました。防衛局職員への暴行、米軍基地の有刺鉄線を無断で切断し不法侵入、基地の入り口にコンクリートブロックを積み上げて工事資材の搬入を阻んだとしての威力業務妨害。これらが〝反戦平和〟の名のもとに行われたのです。そして現在で

も違法活動は繰り返されており逮捕されてもそれをむしろ誇るような過激な革命活動家が集結しています。しかし、地元新聞はこの様な事件をほとんど報道しないか、報道しても記事の内容は、警察の取り締まりが不当であるかのような活動家よりの目線がほとんどです。

活動家が警察署に押し寄せ悪質な抗議デモを行うのはよくある事で、山城氏拘留の抗議デモでは那覇地裁に押しかけた活動家があまりにもヒートアップしたために地裁の職員は庁舎の全てのドアに鍵を掛け警戒態勢の中で対応することとなった程です。抗議活動というよりは〝暴徒〟という表現の方が適切ですが、地元二紙はあくまでも〝市民〟という表現に徹し、可哀そうな市民を弾圧する政府という構図を毎日の偏向捏造記事で作ってきました。

地元新聞がこの様に反社会活動を応援、煽動する姿を見ると、もはや真実を読者に伝えるという報道機関というよりは特定の政治思想を広めるための道具としての機関と捉える方がその実態のようです。

普天間基地辺野古移設問題はマスコミによって作り出されたものという事ができます。なぜなら日米政府の計画に当事者の宜野湾、辺野古は前向きで早く移設を進めようとしているのが実際でそこに移設をストップさせるものは本来ないからです。それなのに20年以上も進まないのは、マスコミが真実を報道せず、他所からやってくる抗議テント村の活動家の主張をあたかも地元民の声として報道し情報を歪め、また県民世論を反日反米に持っていくことで選挙を誘導選挙へと持っていく構造が出来上がっているからです。県民ですらも情報操作のもとでは実際に現場で何が起こっているのか分かりません。

この状況を打開しようと地元民が立ち上がったり、保守系政治家、一般の県民が既存の偏向マスコミ言論空間に異を唱えようものなら彼らの標的となり個人潰しが始まります。左派マスコミや活動家の権力は相当なもので社会的にも精神的にも追い詰められ抹殺されていくのです。ですから今ではタブーとなっているのです。私も二紙を正す会を立ち上げて活動していますが、マスコミや活動家に散々叩かれデマなども流されています。しかしあくまで一県民として社会正義を追求する為に活動を継続しています。

沖縄対本土という構造では実は説明がつかないのがこの争いで、この闘争の陰で沖縄を狙う中国の軍事的挑発は年々エスカレートしています。平成31年度の航空自衛隊の緊急発進（スクランブル発進）は９９９回となり国別では中国は６３８回で前年度から１３８回増えています。また領海侵犯も当たり前のように繰り返されており、船も漁船から機関砲を積んだ公船、軍艦へとエスカレートしています。地元の漁師も尖閣へは漁に行けなくなってしまいました。先月尖閣の行政区石垣市選出の市議仲間均氏が尖閣に出漁した際には帰路中国公船海警に一時間近く追い掛け回されるという事件も起こりました。この事件に関し質問を受けた沖縄県玉城デニー知事は「中国公船がパトロールしているので、故意に刺激するようなことは控えなければならない」とトンデモ発言をしています。他国の領海侵犯に対し抗議をするどころか〝パトロール〟と称して認めてしまう姿勢は県知事失格ですが、地元新聞も小さなベタ記事扱いで問題視することさえありません。

以上述べてきた様に今、沖縄では内からも外からも危機が迫ってきており残念ながら保守政治を担う地元政治家達もこの状況にどうすることも出来ないどころかその空気に迎合してしまう状況にあります。問題は山積みですが、本稿が沖縄の真実に触れ一般の草の根保守の活動を知っていただく機会になれば幸いです。

プロフィール

琉球新報、沖縄タイムスを正す
県民・国民の会代表運営委員
日本文化チャンネル桜
沖縄支局キャスター

我那覇真子

- 平成元年　沖縄県名護市生まれ
- 平成17年　高校交換留学で米国オハイオ州・カリフォルニア州へ
- 平成20年　早稲田大学 人間科学部 入学、在学中、高円宮杯全日本中学校英語弁論大会を主催するJNSA（日本学生協会基金）の運営委員
- 平成24年　早稲田大学 人間科学部 卒業
- 平成27年　国連人権理事会にて翁長雄志知事演説に対するカウンタースピーチを行い国連による日本政府への沖縄県民先住民族勧告を阻止する
- 著書「日本を守る沖縄の戦い」アイバス出版など

【現　職】
- 琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会代表運営委員
- 日本文化チャンネル桜沖縄支局 キャスター
- インターネットテレビチャンネル桜「沖縄の声」（毎週火曜）「おおきなわ」（毎週金曜）に出演

ラジオ番組
- 「沖縄防衛情報局」毎週月曜日15時～　オキラジ
  毎週水曜日17時～　ぎのわんシティFM
- 「あなたを癒す応用心理ラジオセミナー」
  毎週水曜日20時～　FM21

これからの行事

12月

月次祭ご参列のご案内

「つきなみ」とは毎月
平和と安全を祈る大切なお祭りです

日時：毎月1日・18日9時より（約30分程度）
場所：小國神社拝殿

月次祭は、毎月欠かさずに行われ、神職が日本、また地域の平安と、氏子崇敬者の安泰を祈ります。月参りともいわれ、この日にお参りするとご加護が受けられるともいわれています。歴史的にも大変古く、その始まりは、平安中期に編纂された延喜式にも「月次祭」の記述があります。

事前申込みなどは必要ありません。どなたでもご参列できます。ご参列の際は、祈祷受付にてお声かけください。

ライトアップが美しい宮川の紅葉

◀ 疫神齋

11月19日㈫午後2時より、疫神齋を斎行いたします。この祭典は、当社に古くより伝わる特殊神事の一つです。当社の古記録『延宝の記録』にも記載があり、疫病退散の祀りです。

師走大祓式 ▶

12月31日㈫午後3時より、師走大祓式を斎行いたします。下半期の罪穢れをお祓いし、清々しく新たな年を迎えることができます。どなたでもご参列ができますので、ご家族皆様でご参列下さい。

11月　霜月

1日	月次祭	（午前 9時）
2日	大骨董蚤の市	（日の出～午後3時）
3日	明治祭	（午前 9時）
6日	本宮山月次祭	（午前10時）
7日	山神社例祭	（午前10時）
12日	臨時大祓	
14日	大嘗祭当日神社に於て行ふ祭祀（仮称）	
15日	七五三祝祭	（午前 9時）
18日	月次祭・稲祭	（午前 9時）
19日	疫神齋	（午後 2時）
21日	地鎮祭	（午前 9時）
23日	甲子祭	（午前 9時）
	奉納農産物品評会	（午前10時）
24日	もみじまつり	（午前10時）

12月　師走

1日	月次祭	（午前 9時）
6日	本宮山月次祭	（午前10時）
※	鎮火祭	（午後 3時）日時未定
7日	大骨董蚤の市	（日の出～午後3時）
18日	月次祭	（午前 9時）
18日	滝宮例祭	（午前10時）
18日	初穂献納祭	（午前11時30分）
23日	天長祭	（午前 9時）
25日	煤佛祭	（午後 1時）
31日	大祓式・除夜祭	（午後 3時）

小國神社の祭典・
8月～

令和元年12月1日(日)より8日(日)まで
日本野鳥の会遠江
秋の野鳥写真・イラスト展開催!!!
場所：研修室

遠州地方で観察ができる野鳥をご紹介。普段では、なかなか見ることができない野鳥の姿や生態系を写し取った貴重な写真やイラストが展示されます。
本展にお越し頂き、自然に配慮した社会や暮らし方を考える一端になれば幸いです。

8月 葉月

1日	月次祭	(午前 9時)
3日	大骨董蚤の市	(日の出～午後3時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
18日	月次祭	(午前 9時)

9月 長月

1日	月次祭	(午前 9時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
7日	大骨董蚤の市	(日の出～午後3時)
18日	月次祭	(午前 9時)
23日	秋季皇霊祭遙拝式	(午前 9時)
24日	甲子祭	(午前 9時)
25日	御柱祭	(午前 9時)

10月 神無月

1日	月次祭	(午前 9時)
5日	大骨董蚤の市	(日の出～午後3時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
※	白鬚神社例祭	(午後 3時) 日時未定
17日	神嘗奉祝祭	
	神嘗祭遙拝式	(午前 9時)
18日	月次祭	
※	福神像頒布式	(午前10時) 日時未定
22日	即位礼当日神社において行ふ祭祀(仮称)	

秋季皇霊祭遙拝式

9月23日(月)、宮中では歴代の天皇・皇后・皇親の霊を祀る祖霊祭『秋季皇霊祭』が厳かに行なわれます。当社では、同日に皇居内の皇霊殿の方向に向いて拝礼し、皇室の弥栄と国の安寧を祈ります。

大嘗祭当日神社に於いて行ふ祭祀（仮称）

11月14日(木)に斎行いたします。
本年は、天皇陛下の御即位に伴う諸祭儀が神社においても多数おこなわれています。本祭祀もその一つとなります。詳細が決まりましたらお知らせいたします。

新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える「人の一生」

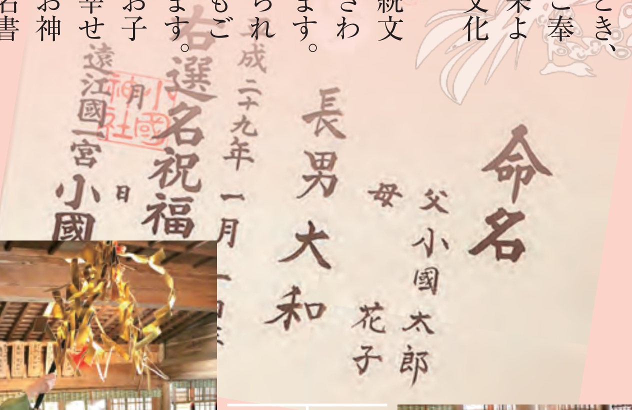
様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。

また、ご家族で考えられたお名前候補の中からもご相談の上、選名いたします。

お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

初穂料　一〇、〇〇〇円也



▶当社で命名奉告をされた皆様

◀お子様の健やかな成長をお祈りします

命名

平成三十一年三月一日㈮～令和元年五月三十一日㈮

渥美ひなた	浜松市
福山凜太朗	森町
神谷 真亜	愛知県
松本 怜奈	磐田市
石切山桜花	袋井市
髙栁 春陽	森町
森田 早絵	袋井市
藤田 吏人	磐田市
加藤 良珂	長野県
大村日麻莉	藤枝市
山下 晄聖	富士宮市
西岡依呂波	掛川市
中村 駿太	掛川市
渡仲 凛果	磐田市
阿諏訪海斗	掛川市
鈴木かれん	森町
大石 聖	愛知県
音喜多那菜子	磐田市
榛葉 晴紀	掛川市
大瀧 零	浜松市
三浦 桃弥	袋井市
村松 咲茉	掛川市
白瀧 昊正	袋井市

お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名･命名奉告で検索

小國神社 選名・命名奉告　検索

神社を知れば日本がわかる
“まつりの国、日本”

イラスト　小國神社ものがたり
作　たたら　なおき

●ご朱印●

意外と知らない!?ご朱印（しゅいん）の歴史と大切な意味

その昔、神仏習合の色合いが濃い時代、書き写したお経を信仰心の証として、社寺に奉納することがありました。このとき社寺から貰える書付が、ご朱印の原型と言われています。また印には古来より、尊いお力が宿っていると考えられました。

江戸時代には、お経を納めなくてもご朱印を受けることができるようになり、「参拝の証」としての意味を持つようになります。さらに大正から昭和にかけて鉄道が発達し、旅先でご朱印を受ける人が増えたとも言われています。

近年では、スタンプラリーのように気軽に楽しめるため、転売などのニュースや社寺でのトラブルが話題にあがりますが、ご朱印はいつの時代も神仏への信仰の証です。節度をもって本来の意味を忘れずに楽しみたいものです。

天皇陛下御即位記念

令和のお屋根替え

～ 次世代へつなぐ 祈り・技・美 ～

ご奉賛のお願い

小國神社では、令和の御代替わりをお祝いし、天皇陛下御即位記念『令和のお屋根替え』～次世代へつなぐ祈り・技・美～を、四年の歳月をかけ、御本殿以下社殿群のお屋根の葺き替え工事をおこないます。

当社の御本殿以下社殿のお屋根は、日本唯一の伝統技法「檜皮葺」（檜の皮で屋根を葺く技法）で葺かれた屋根です。古来より、その造形の柔らかな曲線と風合いに代表される繊細な優美さは、日本の風土と調和してきました。古典文学「枕草子」には、『雪は檜皮葺、いとめでたし。すこし消えがたになりたるほど。…』と綴られ、白雪と檜皮の屋根が織りなす色の絶妙なコントラストが風情豊かに表現されています。

また、定期的な葺き替えが必要であることが示すように、材そのものの美しさを喜び讃え、清らかな状態を大切にしてきた私たちの祖先が造りだした「日本の美」であり、古より変わることのない神様への「祈り」が、その「技」と「美」を護り伝えてきました。

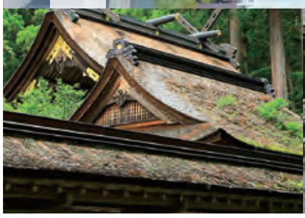
しかしながら、現在、御本殿以下社殿のお屋根は、古いものでは六十余年、新しいものでも四十余年の月日が経過しております。檜皮を使ったお屋根はたびたび補修を施して参りましたが、耐用年数を考慮するとき、葺き替え工事に着手するべきと判断致しました。

つきましては、ご祭神、大己貴命が鎮まる御本殿をはじめ社殿の常若（いつまでも若々しくあること）に努め、先人が護り伝えてきた、「祈りの精神文化」と貴重な「伝統技術」を次世代につなぎ、より一層神さまのご加護を戴けますよう、本事業を進めて参りたく存じます。

世情厳しい折かと存じますが何卒、趣旨をご理解いただき、ご支援、ご奉賛を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

遠江国一宮　小國神社　宮司　打田　文博
小國神社崇敬奉賛会　会長　鈴木　覺
天皇陛下御即位記念事業「令和のお屋根替え」募財委員会委員長　松井　宏悦

修復を必要とする檜皮葺屋根



▶永い年月に亘って雨風に晒された屋根は、損傷や経年劣化、植物の侵食などが確認できます。

奉賛金について

社務所にてお申し込みができます。
（その他の方法をご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい）

募財期間：令和元年 8月 1日から
令和５年10月30日まで

総 予 算：3億5,000万円

工期日程

第１期工事	令和2年1月14日～ 3月31日	真名井
	令和2年2月12日～10月20日	神徳殿・渡り殿
第２期工事	令和3年2月12日～10月30日	御本殿
	令和4年2月12日～ 5月30日	並宮
第３期工事	令和4年4月20日～12月10日	拝殿
	令和5年2月12日～10月30日	中門、幣殿

お屋根替えにともなう主な文化事業
（葺き替え工事現場見学会）

屋根葺き替え作業の様子を一般公開いたします。
日程、お申し込み方法は、改めてお知らせいたします。

ご寄付に関する詳しいお問い合わせは、
小國神社崇敬奉賛会事務局までお願いいたします。

○お問い合わせ先：小國神社崇敬奉賛会事務局
〒437-0226　静岡県森町一宮3956-1
電話：0538-89-7302
「令和のお屋根替え」～ 次世代へつなぐ 祈り・技・美 ～
公式WEBサイト：現在調整中（8月上旬に公開予定）

斎庭（ゆにわ）の草花 ⑬

ミヤコグサ・ウツボグサ

当社は四季折々の自然に恵まれた豊かな杜に包まれ、ご神域には多くの草花が息づいています。
ご紹介するご神域での草花の写真の数々は崇敬者の山崎克己様の奉納写真をもとに掲載いたします。

ミヤコグサ（都草）　マメ科ミヤコグサ属
花期　初夏
エンドウに似た花形で、黄色い花を咲かせます。日本全国で見られる野草ですが、京都によく見られるので都草と名付けられました。また、花の形が烏帽子に似ているため別名エボシグサとも呼ばれます。

ウツボグサ（靫草）　シソ科ウツボグサ属
花期　五月から七月
茎の先端に三～八㎝の角張った花穂をつけ、紫色の唇形を密集して穂の下から上へと順に咲かせます。
花が終わると夏に花穂は暗褐色に変化し一見枯れたように見えることから別名を夏枯草（かごそう）とも呼ばれ、漢方にも利用されます。

◀ミヤコグサ(右)とウツボグサ(左)

“心をうるわしく感性を高める”

第十期「遠州とこわか塾」入塾のススメ

「常若（とこわか）」とはいつまでも若々しくいることです。
私たちは「若々しさを保つ」とは、単に体力的なことだけではなく、むしろ心や頭の若々しさこそが重要だと考えます。
その為には、よい話を聞き美しいものを見て、感動や感謝の気持ちを忘れず、常に感性を高めることが大切です。
当塾は、我国の歴史や伝統文化にはじまり、時局的課題について学び、日本人としての生き方の参考となるような礎材を提供しています。塾生の皆さんが自己研鑽の場としてご活用戴くことを願っております。

【入塾要項】

一、**定　員**　一〇〇名（申し込み先着順）
一、**資　格**　小國神社が好きな方（十八歳以上）
一、**塾　費**　年間　一〇、〇〇〇円（一年を一学期とします。）
一、**開催日**　年数回（九月一日から翌年八月三十一日迄の間）
一、**ご案内**　開塾のご案内はその都度神社から発送致します。
一、**申込方法**　〒番号・住所・氏名・電話番号・年令・性別を記入して、葉書、FAX等でお申し込みください。
お申込先　FAX（〇五三八）八九―七三六七
「遠州とこわか塾事務局」
一、**申込期限**　令和元年八月二十五日㈰

絵本・まんが・造形作家
たたらなおき先生

東京家政学院大学名誉教授
江原絢子先生

鎌倉長谷寺法務顧問・エッセイスト
髙田都耶子先生

◆第9期までの講師の皆様◆

編集後記

玉垂五十六号をお届けいたします。
天皇陛下が五月二十七日に初の国賓として来日したトランプ大統領を宮中晩餐会でもてなされた際、大統領は「Ｒｅｉｗａ」の単語を何度も使いながら返礼のスピーチを行いました。
「令和は、日本国民の一体性と美しさを祝福するものです。そして、それはまた変わりゆく時間の中でも、我々が受け継いできた伝統の中に我々が安らぎを得られることを思い起こさせます。」と語るその姿は、私たちが普段イメージする大統領の姿とは少し違ったものでした。
外交的な意図を差し引いても、先のスピーチには、元号がご皇室と日本人を精神的に繋いできたということへの深い敬意が滲んでいたように思います。

玉垂 たまだれ　第五十六号　令和元年七月三十一日　題字揮毫／書家 杭迫柏樹
発行／小國神社社務所　〒四三七―〇二二六 静岡県周智郡森町一宮三九五六―一
電話 〇五三八―八九―七三〇一　FAX 〇五三八―八九―七三六七　印刷／㈲デザインオフィス エム・エス・シー